

昭和55年度

市場調査報告書

昭和56年3月

国際協力事業団



移計調
J R
81-2

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3.12	700
登録No. 00148	85
	EPS

は　じ　め　に

市場調査は、当事業団海外支部が、管内移住地の主要農産物について、その生産・流通など把握することを目的として毎年実施しているものである。

本年度は、アスンシオン支部がパラグアイでの蔬菜栽培の将来性を隣接するアルゼンティンウルグアイとの関連において検討すべく、パラグアイ、アルゼンティン、ウルグアイ三国に於て蔬菜の流通、生産状況を調査した。

この報告書が、日系移住者の営農安定向上に役立てば幸いである。

昭和56年3月

移住計画調査部長

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査団の構成	1
3. 調査団及び調査期間	1
4. 調査日程	1
II 調査結果	4
1. パラグアイの野菜産業	4
2. アルゼンティンとウルグアイの野菜産業	10
3. パラグアイ産野菜の隣接国への輸出について	15
あ と が き	23

I 調査の概要

1. 調査の目的

一般に野菜産業は都市の周辺部に興り、都市の発達と経済の成長インフラストラクチャーの発展にともない、軟弱野菜類の生産を主とする近郊野菜園芸と、輸送性の高い果菜類の都市への供給を目的とする輸送野菜園芸とに分化してゆく。

その生産は適地に於ける適作物を原則とし、種々の栽培方式を運用しながら、多岐多様の都市の需要に良く応えている。

中位開発途上国のパラグアイでは近年の経済の発展に伴ない、農業全般の成長に目覚しいものがあるが野菜園芸もこれの例外ではない。

本調査はこの様な状況を踏まえて、パラグアイでの野菜産業の将来を隣接するアルゼンチン、ウルグアイとの関連に於いて、検討しようとするものである。

2. 調査班の構成

江口 義弘	JICAパラグアイ農業総合試験場	総括調査報告書作成担当
菅沢 忍	JICAアスンシオン支部業務第一課	企画調査資料蒐集担当
沢地 真	JICAエンカルナシオン支所	資料蒐集担当

3. 調査国及び期間

調査	アルゼンチン、ウルグアイ
期間	11月29日 - 12月7日

4. 調査の日程

月	日	曜日	調査業務	宿泊地	走行距離
11	29	土	アスンシオン市内の日系三卸売業者の市場視察と調査(江口) 同市アスンセーナ園芸組合の視察、調査(江口、菅沢)	アスンシオン	0 km
11	30	日	レシステンシア市内の小売店調査(江口)	サンタ・フェ	897
12	1	月	サンタ・フェ市中央卸売市場の視察と調査(江口、菅沢、沢地)	ヴェノスアイレス	511

月	日	曜日	調査・業務	宿泊地	走行距離
1 2.	1.	月	ヴェノスアイレス支部との調査下打合せ (江口, 管沢, 沢地)	ブエノスアイレス	
1 2.	2.	火	ヴェノスアイレス市, A B A S T 及び S A L D I A S 卸売市場調査(江口, 管沢) アルゼンチンの野菜の輸入に関する資料蒐集 (管沢) ヴェノスアイレス市近郊野菜生産農家視察 (江口, 沢地)及び情報蒐集(江口, 沢地)	ブエノスアイレス	
1 2.	3.	水	ヴェノスアイレス市内小売店調査(江口) 事業団派遣, 野菜研究協力専門家と事前打合せ (江口, 管沢, 沢地)	モンテビデオ	3 9 5
1 2.	4.	木	モンテビデオ市内小売店調査(江口) ウルグアイの野菜の輸入に関する資料蒐集(管沢) モンテビデオ市近郊野菜生産農家視察 (江口, 沢地) モンテビデオ市 A G R I C O L A 卸売市場調 査(江口, 管沢, 沢地)	モンテビデオ	
1 2.	5.	金	モンテビデオ市 M O D E R N O 卸売市場視察 (江口, 管沢, 沢地) ブンタデエステ市小売店視察調査(江口) ポルトアレグレ市の野菜生産流通事情聴取 (江口)	ポルトアレグレ	9 3 1
1 2.	6.	土	ポルトアレグレ市内小売店調査(江口)	サンタローザ	7 5 8
1 2.	7.	日	特記事項なし	アスンシオン	2 1 6
					3 7 3 5 km

II 調査結果

1. パラグアイの野菜産業

(1) 概 要

タマネギ、ニンニクを加えた野菜の栽培面積は、農牧省統計によると、1978年41,000 ha とされており、これは人口100万人当り約13,670 ha に相当する。日本に於けるそれは6,000 ha であるから、相対的にみてかなり広大な面積が野菜生産に供されていると云えよう。

然し、人口100万人当りの野菜の総産出額は日本の32億%に対し、約2億%であるから土地生産性は極めて低く、国民1人当りの消費量も又極めて低い事が予想される。

近年の野菜生産の伸びは第1表に見られる如く、急激な成長を示す。大豆、棉には及ばないものの、マンジョカ、さつまいも、米等を凌ぎ、主要農作物の平均19%を越す60%である。

第1表 1978年度主要農作物生産及び価額指数

年次 作目	生産指数		生産高	総産出額指数		価額
	1972	1978	1978 (千屯)	1972	1978	1978 (千万%)
とうもろこし	100	162	368	100	395	585
米	100	141	58	100	222	20
大豆	100	285	333	100	718	789
棉花	100	710	285	100	1490	1264
いんげん豆	100	325	64	100	469	188
なんきん豆	100	108	23	100	222	71
マンジョカ	100	406	1838	100	330	1498
さつまいも	100	118	187	100	270	172
じゃがいも	100	122	9	100	155	22
玉ねぎ	100	165	33	100	198	73
にんにく	100	322	-	100	438	6
南瓜	100	131	18	100	411	75
メロン	100	129	14	100	231	81
いちご	100	129	0.6	100	807	8
西瓜	100	110	34	100	237	171
その他野菜	100	160	-	100	333	219
					小計(688)	
計	100	119	-	100	433	5,757

註 カボチャ、メロン、スイカは百万ヶ単位で表示

Source. ENCUESTA, AGROPECARIA, POR NUESTRO, 1978

野菜総産出額の伸びは23.3%であり、主要農作物の33.3%を下廻るから、同期間内の野菜の単価の上昇率105%は、他作物に比し低い。(第1表参照)

第2表 実質国民所得の変化

単位100万

年次	所得	指数
1972	83,852	100
1973	91,361	105.7
1974	101,224	118.6
1975	105,607	121.0
1976	109,346	131.5
1977	117,600	147.0
1978	126,106	156.7

Source BANCO, CENTRAL
DEL PARAGUAY

第3表 アスンシオン市消費者物価指数

年次	飲食費	住居費	水道 光熱費	総合
1972	100	100	100	100
1974	152	134	129	141
1976	165	151	147	157
1978	208	173	169	190
1979	269	211	221	242

Source BANCO, CENTRAL DEL
PARAGUAY

これは、野菜生産の伸びが単価の上昇に刺戟されたものではなく、都市化の進展、インフラストラクチャーの改善、国民所得の増加と生活水準の向上からくる野菜生産の有利性と需要の増大によって引き起こされたものである事を示す。その総産出額は1978年度で68億8千万円と短期作物総産出額の約12%をも占めている。

野菜生産の伸びを支えるこれらの社会経済的な条件は、今後ますます好転するであろうから野菜の生産と需要はなお増加してゆくと考えられる。

現に作目の選択的拡大や多様化の傾向は、第1表のニンニクやイチゴの例にみられ、産地間や、国際市場での競争はトマトやロコテ、ジャガイモ、タマネギにおいて始まっている。

第4表 国別一人当り野菜摂取量

	アメリカ	日本	イスラエル	フィリピン	インド	アルゼンチン	チリ	ブラジル
G/日/人	259	361	331	79	47	76	265	22
国民所得	5600	4700	2800	350	200	1900	-	800

Source ポケット国芸統計-1979-

第5表 所得階層別主要野菜購入額の変化

品 目	所得階層		
	220万以下	290～370万円	490万円以上
ト マ ト	14.9(100)	15.2	19.1(128)
ロ コ テ	3.2(100)	3.4	3.9(122)
ナ ス	9.9(100)	9.5	12.3(124)
キュウリ	18.7(100)	18.8	23.1(124)
レ タ ス	5.7(100)	5.5	7.5(132)
ニンジン	9.1(100)	8.9	11.0(122)
ジャガイモ	17.4(100)	18.2	20.4(124)
キャベツ	23.4(100)	23.4	27.1(117)

Source ポケット圏芸統計-1979-

(2) トマトについて

バラグアイに於けるトマトの栽培面積はF.A.O の推計によると1978年度3,000 ha 生産高5万5千屯、人口1人当り年間18kgとなり、未発達野菜産業のなかにあつて際立った存在である。生産高の80%を販売量とし、その60%が首都圏に出廻るとすれば首都圏のトマトの需要量は年間ほぼ2万6千屯、その季節的な配分は、暖期4:1寒期とすれば2万8百屯:5千2百屯となる。

首都圏の消費人口を100万としても、これは一人当り26kgに相当しかなりの水準である。ラテン系人種のトマトに対する強い消費性向を示すものと思われる。(第6表参照)

第6表 各国野菜生産統計

(Source) ①栽培面積1000ha ②生産高1000t ③単収 t/ha
F.A.O ④生産高 kg/人/年

	スペイン	イタリア	ポルトガル	チリー	アルゼンティン	ブラジル	ウルグアイ	パラグワイ	日本
①	71	113	28	7	30	55	4	3	19
トマト ②	2153	3653	679	172	574	1452	45	55	960
③	30	32	24	26	19	26	11	18	51
④	65	68	72	18	24	15	16	18	10
①	30	20		2	4		1		4
ロコテ ②	397	462		23	53		5		170
③	13	23		11	13		5		43
④	12	9		2	11		12		2
①	5	11		5	30		9		14
カボチャ ②	126	288		130	260		35		230
③	25	26		26	9		4		16
④	4	5		13	11		12		3
①	66	12	3	4	6	5	1	1.4	14
メロン ②	641	287	17	130	66	30	3	7	273
③	10	24	6	33	11	6	3	5	20
④	28	5	2	13	3	0.3	1	2	3
①	38	6		2	17	7	1	0.7	
ニンニク ②	223	57		9	79	26	2	0.3	
③	6	10		5	5	4	2	4	
野菜 摂取量9/日/人	353	427	358	265	76	22	-	-	361
人口(百万)	33	54	10	10	27	100	3	3	110

日系生産者のトマトは日系の卸売業者に出荷されるとし、3業者の取扱高とほぼ等しいとすれば、1980年度のそれは約5千4百tになり、シェアは約23%となるから、その生産や販売単価の動向は注目される。

農協中央会の販売実績によると、販売数量は1978-80年にかけて2.2倍、売上高は2.4倍になった。この伸びが新しい需要を喚起したのか、或いは既存の需要に食い込んだのかは不明であるが、いずれにせよトマトに対する需要が根強いことは確かである。

(第7表参照)

第7表 農協中央会販売実績

	項目	販売数量 箱	単価 円/箱	売上高 千円
	年			
メ ロ ン	1978	45,876	654	30,013
	1979	51,893	810	42,031
	1980	100,918	734	74,053
ロ コ テ	1978	3,047	401	1,223
	1979	4,902	389	1,907
	1980	10,451	498	5,208
メ ロ ン	1978	2,424	766	1,857
	1979	3,287	990	3,257
	1980	6,347	1,078	6,841

これに応じて、中央会最大の出荷者イグアス移住地の日系拓進ジョボイラ農協は第8表の如く、同期間にトマトの販売数量と売上高をそれぞれ2.6倍、2.8倍に伸ばした。1980年度のトマトの売上は、大豆、鶏卵を抑え第一位にランクされる。生産資材や労賃の値上りを高度の技術を駆使した生産性の向上で吸収するであろうから、増産の傾向は生産過剰による長期間に亘る価格の暴落をきたすまで続こうがそれ以前に自主的な納得性のある生産調整のシステムや計画的な輸出を実施する体制を作る事が肝要なことと思われる。

(3) ロコテについて

ロコテに関する農牧省の生産統計は入手出来ず推測の域を出ないが

ア) 1980年にパラグアイからアルゼンチンに少なくとも3000吨が輸出された事

イ) それにも拘わらず1980年の卸売価格は1979年に比し、1～9月の平均で12%しか上昇しなかった事

ウ) ロコテは、トマトに比し栽培が容易であり、ほ場貯蔵性も高く、店持ちも良くパラグアイ人にとって作り易い作物である事

等を考慮すると首都圏でのロコテの出廻り量は、意外に大きいと思われる。卸売の店舗数、消費量/人や、消費性向から敢えてこれを予測すると、輸出分を除きほぼ7000吨程度であろう。

農協中央会の1980年度販売実績は第7表の如く、増加傾向にはあるがそのシェアは

極めて低い。又、拓進ジョボイラ組合の出荷量も僅か70屯である。

然しながら、ロコテの国内需要は第6表のアルゼンチン、ウルグアイの例に見られる様に国民の強い消費性向に支えられてなお増加するであろうし、アルゼンチン、ウルグアイへの有利な輸出も期待出来るので積極的に奨励し得る作物である。

第8表 拓進ジョボイラ組合農産物販売実績(主要品目)

品目	年次	取扱い量 (t)			単 量 (円)			売 上 (万円)		
		1978	1979	1980	1978	'79	'80	1978	1979	1980
大豆		2,467	3,765	4,130 ^t	25	25	23	6,168	9,413	9,466
マイズ		1,430	815	859 ^t	10	16	13	1,490	1,303	1,044
豚(成)		640	430	280 ^頭			(×100)			
鶏卵		269.0	219.6	236 ^{100ダース}	2,450	2,670	2,690	6,590	5,864	6,336
トマト		652	1,029	1,679 ^{100ケース}	840	930	930	5,470	9,572	15,613
ロコテ		33	102	72.5	480	420	550	157	428	399
メロン		49	91.7	151.4	620	810	950	305	743	1,438

註 トマト、ロコテ、メロンの目方ノケースは各々18kg、10kg、27kgである。

Source 拓進ジョボイラ組合業務報告書

(4) メロンについて

農牧省の統計によると、メロンは古くより、かなり広く栽培されており、1978年の生産高は、1426万個(ほぼ1万4千屯)と報告されている。

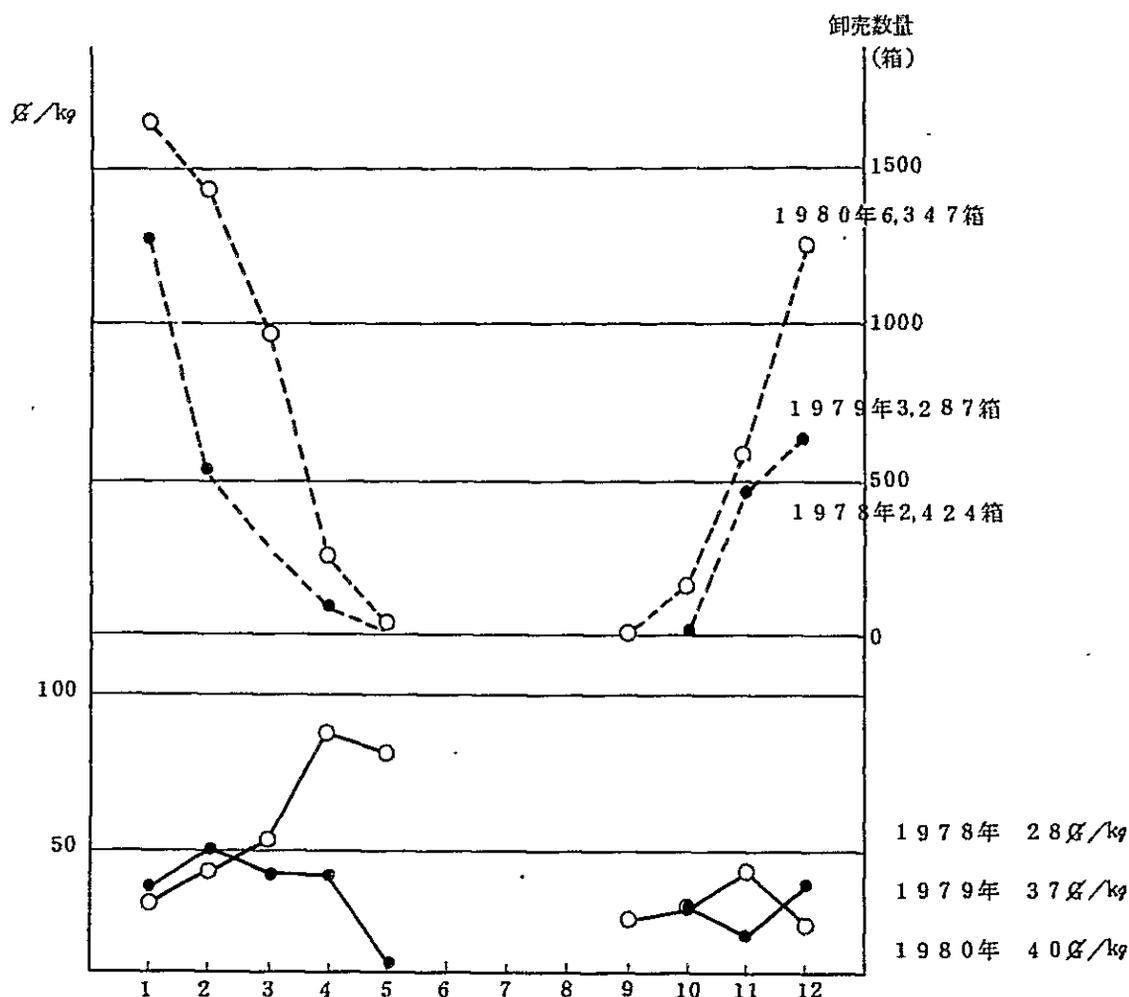
日本で育成された露地栽培用の品種が導入普及されるに及び、その勝れた食味の為に第7,8表第1図にみられる如く、1978-1980年の3ケ年に拓進ジョボイラ農協は出荷量を3倍に又農協中央会は販売量を2.6倍に増やした。

販売単価は、28円/kg-37円/kg-40円/kgと、それぞれ32%及び8%上昇している。

本種の首都圏での出廻り量は未だ400屯前後で少ないが生産の増加につれ、在来種の消費層に浸透し、又新規消費層を創出しその需要を拡大していくであろう。

露地メロンは当地に適した作物であり、良品が生産される。

ヴェノスアイレス、モンテビデオを含めた大消費圏での膨大な需要を思えばメロンの需要量の前途は洋々たるものがある。消費者の嗜好に合った品種の探索と積極的な販売政策が生産増加販路拡大のキーポイントとなる。

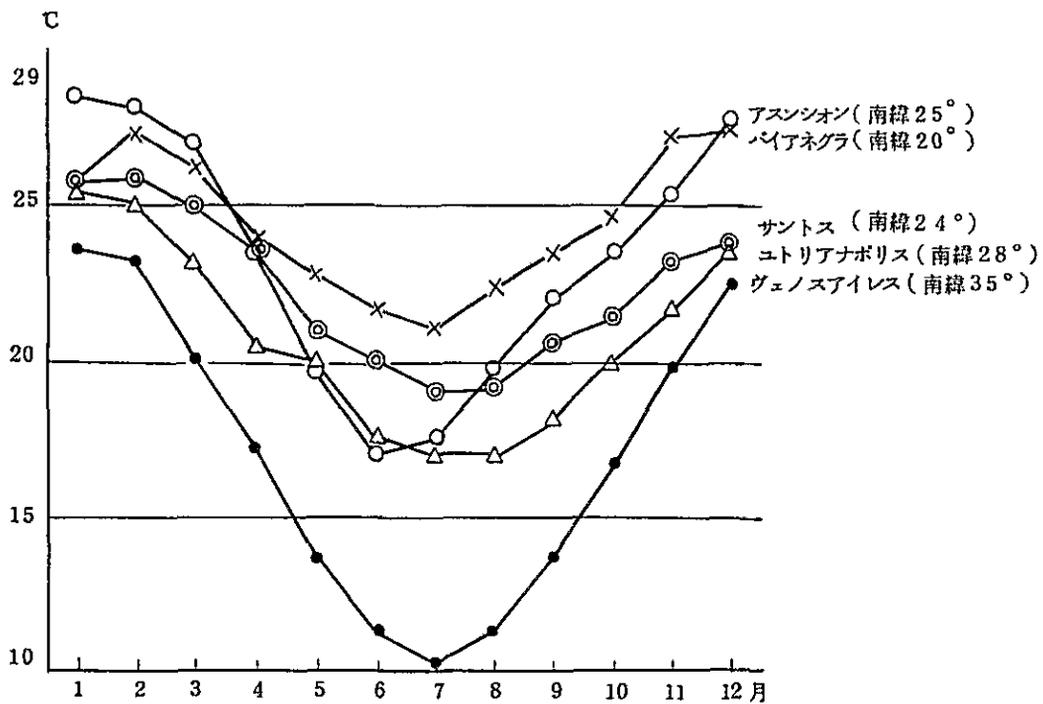


第1図 農協中央会月別卸売数量及び価格

2. アルゼンチンとウルグアイの野菜産業

両国とも世界に鳴り響いた牧畜国であり、その国土の大部分は放牧地となっているが、両国の首都圏に密集した市民の生鮮食糧の供給基地として都心からほぼ60km内には大きな野菜生産地帯が立地している。

第2図に見られる如き気象条件下で、近郊野菜園芸地帯では、レタス、葉ネギ、ビート、インゲン、フダンソウ、人参、キャベツ等が広く栽培され都市の需要を満たし、夏の盛時にはカボチャ、キュウリ、ナス、トマト等の果菜類をも供給している。



第2図 主要地点での月別平均気温 Source 理科年表

適期、適地、適作物の大原則に従い、特色ある輸送野菜園芸地帯が各所に成立し、銘柄の通った秀れた品物を首都圏の卸売市場に送り、販売を有利に進めている。

アルゼンチンに於ける メンドーサのメロン、メンドーサの玉葱、サルタのトマト、
サルタのカボチャ

ウルグワイに於ける サルトのトマト、トーモロシ、ベジャ、ユニオンのキュウリ
サルタのカボチャ、カルローネのスイカ、メロン、カボチャ等がそ

の一例である。これ等輸送園芸地帯へのヴェノスアイレスからの距離は第9表に示した如く、北方約1400kmから南西1200kmにもなるが、東京の卸売市場と北海道の北見、沖縄や熊本、宮崎との距離、冬場に莫大なトマトをニューヨークに輸出するメキシコ、ソノーラ州やフロリダ州の事例更に大量の果菜類をヨーロッパに輸出するヨルダンの例を想えば、この距離は驚くには値しない。

パラグアイの輸出野菜はこれ等の輸送園芸地帯のそれと、熾烈な販売合戦をすることになる。

良く整備された公設卸売市場を両国の都市は運営しており、膨大な出荷物が、荷受卸受業者或いは、框を持つ生産者によって手際よく小売人或いは中間卸売人に売り捌かれていた。値決めは相対が主体をなし、日本に於ける吊上方式による“セリ”は稀であった。

第9表 アルゼンチンの主要トマト産地

州名	位置	面積 (ha)	収量 (t)
メンドウサ	ブエノスの西約 1000km	6,300	83,000
サンチャゴラ エステロ	ブエノス北 約1000km	5,000	80,000
リオネグロ	ブエノスの南西 約1200km	5,600	60,000
ブエノスアイレス	ブエノス市周辺	2,700	8,100
サルタ	ブエノスの北約 1400km	2,250	58,700
コルリエンテス	ブエノスの北 約1000km	2,200	49,100
サンファン	ブエノスの西北 約1150km	1,600	24,000

Source ブエノスアイレス支部提供

アルゼンチンの主要ロコテ産地

州名	位置	面積 (ha)	収量 (t)
ツクマン	ブエノスの北方 1300km	1,500	13,300
サルタ	ブエノスの北方 約1400km	1,100	25,700
コルリエンテス	ブエノスの北 約1000km	830	14,800
ブエノスアイレス	ブエノス周辺	1,100	8,600
フフイ	ブエノスの北方 約1500km	830	14,860
メンドウサ	ブエノスの西 約1000km	800	4,900

Source ブエノスアイレス支部提供

輸入ものに独特のものが見られたが、荷姿は品目により、ほぼ決まって居り、木製の“スカシ箱”が最も一般的であった。果樹では美しく化粧印刷された段ボールが用いられて居り、印刷の入ったセロハンを青いシダの葉の上に被せた凝った包装のトマトもあった。

出荷物の品質は概ねアルゼンチンの方がウルグワイのよりも良く、パラグワイ物でこれ等に比肩し得るのは現時点では僅かに良質のトマト、ロコテ、メロン、キャベツ、白菜であろう。

産地での栽培技術は例外にあるものの、イグアス移住地の野菜専業農家のそれよりも低いと思われる。

従って出荷物の高い品質は厳格な選別の結果であろう。品質の良いものは高値をつけられ、

第10表 主要野菜の各都市卸売市場に於ける価格

単位：kg/1kg ()内数字は該当価格発現の月

品目	ウエノス市トレンゴ市場			ウエノス市アバスト市場			ア国サンタフェ卸売市場			モンテワイデオ市農産市場			アスンシオン市農協中央会			日本平均
	高値	安値	平均	高値	安値	平均	高値	安値	平均	高値	安値	平均	高値	安値	平均	
トマト	388 (9)	104 (2)	246	361 (9)	91 (2)	226 (200)	170	17	94	146	95	121	81 (9)	18 (10)	50	89
ロコテ	590 (9)	156 (2)	373	399 (10)	125 (4)	262 (276)	182	37	110	438	117	228	90 (11)	39 (2)	65	49
メロン							234	93	164				88 (4)	27 (9)	58	
サツマイモ				119 (10)	49 (4)	84 (70)				37	15	26				71
レタス				351 (7)	78 (11)	215 (321)	102	51	77	83	43	63				100
玉ネギ				38 (9)	21 (8)	30 (27)	62	31	47	95	44	70	73 (1)	10 (10)	42	46
ジャガイモ				65 (8)	18 (1)	42 (35)	40	20	30	73	22	48	34 (10)	13 (12)	24	57
人参				51 (9)	30 (1)	41 (44)	34	7	21	88	73	81				58
キャベツ							136	45	91	121	13	67	40 (4)	12 (8)	26	40
トウモロコシ	357 (9)	40 (2)	199							144	72	108				
カボチャ(1)				154 (8)	49 (1)	102 (105)				95	22	58	62 (8)	10 (2)	36	66
ニンニク				1040 (10)	172 (1)	606	680	136	408	450	80	265				

註 1980年価格

()内は騰取した平均価格
各年の平均

騰取した年平均価格

1980年価格

1978年全国平均
ポケット調査統計

註 表中平均値は、高値、安値の平均値である。ニンニクのkg/1kgは紙者の推計による

第 1 1 表 9 月の卸値比較

品 目	①ヴェノスアイレス 市場	②モンテビデオ 市場	① - ②
ト マ ト	361	282	79
ロ コ テ	370	556	-186
カボチャ	172	165	7
人 参	52	56	- 4
玉 ネ ギ	42	78	- 36
ジャガイモ	41	48	- 7
サツマイモ	92	44	48
ナ ス	248	—	
レ タ ス	69	137	- 68
フダンソウ	66	50	16
ニンニク	138	171	- 33

註 ニンニク以外の単位は円/kgである。

活発な市場ほど良い品物を揃えていた。

これ等の市場で販売を有利に展開するには、アツピールする包装と良質の揃った品物、安定した品物の供給が必要であろう。

品数は、パラグアイに比しはるかに豊富であり、ウルグアイのブンタデエステ、ポルト・アレグレ市の小売店の品物は日本の小売店のと変わらない程、バラエティに富んでいた。サラダにするという日本種の大根、セロリー、エンダイブ、ニュージーランド、スピナッチ、ホオジキトマトピクル用キュウリ、フダンソウ、リーキ、アスパラガス、パセリー、クレソン等はその例であり、高い消費水準を示していた。

卸売価格は年により、又市場により変動するが、ウエノスアイレス市とモンテVIDEO市のそれはアスンシオン市のよりも高く、特にトマト、ロコテ、メロン、カボチャ等の果菜類に大きな価格差が見られる。通常都市の規模に応じて卸売価格は高くなるものだが、人口32万のサンタフェ市の卸売価格でさえ、アスンシオン市のそれよりも高く、日本との対比しても、相対的に高い。トマト、キャベツ、レタス、カボチャ特にロコテにその傾向が強く一般庶民が充分にこれ等の野菜を摂っているとは思えない。

第11表に示した如く、公表されたウエノスアイレス市とモンテVIDEO市の1980年9月時点の卸売価格の比較から両市に於ける卸売価格の変動は類似していると考えられる。

(15頁第3.4図参照)

各都市に於ける小売価格は第12表の通りで卸売価格に連動して居り、ポルト・アレグレ市とレジステンシア市以外は全て日本のそれよりも高く、不良品まで売られていた。

有名な避暑地ブンタデエステの小売店が良質の品を数多く揃え非常に高値で販売しているのは一考に値する。

3. パラグアイ産野菜の隣接国への輸出について

(1) 市場

ウエノスアイレス市を中心とするグラン、ウエノスアイレス市の人口は830万人と称され日々消費される野菜だけでも龐大な量にのぼる。今、仮りに市民200名/1日の摂取量としても1660トン/日の需要となり、15トン/haの生産とすれば毎日110haの野菜畑が収穫されることになる。当市の人口は年々増加し、生活水準の向上につれ、野菜への需要も増加し、多様化するであろうから、いくつかの利点を持つパラグアイの野菜産業が見逃してはならない大きな市場である。

第12表 主要野菜の各都市小売市場に於ける価格 12月中旬

₪/kg

品 目	ア国レジステ	ア国ヴェノス	ウ国モンテグイ	ウ国プンタデ	ブラジルポルトアレグン市内		日 本
	シア市内 ㊦	市内 ㊥	デオ市内 ㊦	エステ市内㊦	㊥	㊥	
ト マ ト	13 [㊧]	190 [㊧]	175 [㊧]	292	120	100	173
ロ コ テ	136	610 [㊧]	584 [㊧]	584青 1022赤	80(サンタ種) 300	150	194
メ ロ ン				512	120	140	
サツマイモ		190	102 [㊧]	117	50	60	
レ タ ス		136	87	127	60	50	188
玉 ネ ギ	102 [㊧]	109	161	146		50	60
ジャガイモ	5 [㊧]	82 [㊧]	73 [㊧]	102	90	100	71
人 参		136	161 [㊧] 117 [㊧]	175		60	97
キャベツ	7 [㊧]	272	73	29	50	40	51
トウモロコシ		204		290	100	100 [㊧]	
カボチャ(小)		163	219	73	100	250	
ニンニク	2.7/ケ [㊧]	68/ケ	29/ケ	44/ケ			
ビ ー ト		164 [㊧]	131 [㊧]	146		120	
キュウリ		163	292 [㊧]	219 175 [㊧]	120	100	200
フダンソウ			73	73			
ナ ス				468	130	80	250
カボチャ(大)				292			
葉 ネ ギ				263	90		
インゲン			102 [㊧]	146			

- 註 1. 表中㊧印のあるものは不良品でアンダラインは良品を示す。
 2. 表中㊦㊥㊧とあるのは小売店の規模の大小を示す。
 3. 日本㊧は、1979年6月の東京に於ける小売価格である。

Source
 ポケット園芸統計

ヴェノスアイレス市と同様な気象条件下にあるモンテ、ビデオ市は人口こそ150万人と少ないが市民はヴェノスアイレス市民と同程度の消費生活をしており、野菜の需要も多く有望な市場である。

特に1月～2月にかけてアルゼンチンから延25万人の観光客が訪れると云われるブンタ、デエステは高級野菜の特需地帯として考慮せねばなるまい。

(2) ウルグアイとアルゼンチンの野菜の輸入

既述した如く両国の首都圏は、数千haの近郊野菜園芸地帯とより広大な輸送園芸地帯を野菜供給基地として持つが市民の多様化する需要や市場の安定して良い品物を良く供給しようとする意図を反映し、多種類の野菜を数多くの国から輸入している。

ウルグアイの野菜輸入概況は第13表のとおりである。

第13表 ウルグアイ野菜輸入関係情報

品 目	輸 入 時 期	輸 出 国
ト マ ト	冬 - 春	ブラジル, チリ, パラグワイ (700t)
ロ コ テ	冬 - 春	ブラジル, チリ, パラグワイ (225t) (75t)
玉 ね ぎ	春 - 夏	アルゼンチン, オランダ
ジャガイモ	夏	オランダ, スペイン, フランス
人 参	冬-春-夏-秋	アルゼンチン

註 市場関係者より聴取

アルゼンチンの野菜輸入統計は第14表の通りで、1月～9月迄の累計であるが、量的にはジャガイモが最も多く約19000吨、次いでZAPALIO(大型のカボチャ)69000吨、ロコテ約42000吨、トマト4,0000吨、メロン14000吨、キャベツ10000吨、ナス7000吨となっている。

ha 当り平均20吨の収量とするとこれら7品目で1820haの面積に相当する。

(3) パラグアイの野菜の輸出

パラグアイ中央銀行の統計によれば、トマト、ロコテ、サツマイモが輸出品目で主としてアルゼンチンに輸出されてきた。トマトの輸出量は漸増の傾向にあり、ロコテはこの数年間に急増した。1980年1～9月迄のアルゼンチン輸入統計によれば、トマトの輸出は

1832 吨程でブラジルに少差で続き第2位、ロコテは3387 吨で第1位、ナス570 吨第1位、キャベツ646 吨で第1位となって居り、ヴェノスアイレス市場で確固たる地位を得つつある。

第14表 アルゼンチン野菜輸入統計

品目	輸出国	数量(t)
トマト	チリ	78
	パラグワイ	1,832
	ブラジル	2,083
	ポリビア	48
ロコテ	パラグワイ	3,387
	ブラジル	809
カボチャ(大)	ブラジル	6,927
カボチャ(小)	ブラジル	18
サツマイモ	ブラジル	20
ナス	ブラジル	107
	パラグワイ	570
メロン	ブラジル	1,452
インゲン	ブラジル	155
タマネギ	ウルグワイ	19
	チリ	46
イチゴ	ブラジル	4
	チリ	8
レタス	ブラジル	20
	チリ	5
キャベツ	ブラジル	396
	パラグワイ	646
スイカ	ブラジル	276
ジャガイモ	カナダ	5,733
	フランス	11,144
	オランダ	2,042
	ウルグワイ	149

1980年のアルゼンチン当局に対する輸入申請統計によれば

	パラグアイ	ブラジル
トマト	10200 吨	900 吨
ロコテ	2800 "	2000 "
カボチャ	—	17800 "
キャベツ	1000 "	1800 "
サツマイモ	1200 "	1400 "

期間 8月～10月

となっているから、輸入不履行の原因はさておき、パラグアイ産野菜に更に強い需要があるとみても良からう。(第15表参照)

尚、ヴェノスアイレス市場の5月～11月迄のトマトの入荷量は約100,000 吨同期間のロコテのそれは約12,000 吨と推計されるから輸出を伸ばす余地は大きい。

第15表 野菜輸出実績
Source: BOLETIN ESTADISTICO
BANCO CENTRAL DE
PARAGUAY (1)

品目	1970	1973	1976	1979
トマト	2,265 (-)	2,652 (790)	2,750 (772)	2,871 (772)
ロコテ	125 (-)	714 (92)	736 (83)	3,065 (154)
サツマイモ	417	334	644	55

註 ()内の数字はアスンセーナ組合の輸出量

モンテヴィデオ在住のSR. EUGENIO BRIL の情報によると、1980年6月、11.2 吨のロコテと32.2 吨のトマトが陸路パイサンドを経由して、パラグアイからウルグアイに輸出された。輸出業者はSAN LOLENZO在のALEX CUEVAS S.A. との事である。

市場の規模こそ、ヴェノスアイレスには及ばないものの、トマト、ロコテの値動き、入荷の変動はヴェノスアイレス市場に似ていようから、ブンタ、デエステの需要も考慮に入れると、モンテヴィデオも有利な市場と云えよう。

5月～11月にかけてのトマトとロコテの供給量を敢えて推計すると、それぞれ9200 屯及び1200 屯、月平均1300 屯と170 屯になり、パラグワイの生産者にとっては大きなマーケットである。

輸出に際し、輸出品目の輸出先の卸売市場に於ける入荷状況や卸売価格の変動を知る事は重要であるので参考までに蒐集した一部の資料を次頁第3図第4図に示した。

第3、第4図によると、トマトとロコテの輸出に有利な期間は、それぞれ8月～12月、7月～12月のように思われるがこれ等のアルゼンチン或いはウルグワイ市場に於ける競争力は、生産コスト、品質、ブランドの市場に於ける信用度、安定した供給力、荷受業者の販売力、年々或いは月々の需給バランスの変動によって影響されるから輸出時期については、弾力的に考え敏速に対応せねばなるまい。

確固たる輸出市場を築くために一元集荷、共同選果、共同計算、品質検査と格付け近代的な包装、迅速な情報の蒐集と処理、優良な複数以上の荷受業者と市場の選定ビニールトンネルビニールポット育苗等の新技術導入による適期作の励行、新しい特産地の育成等が実践されねばなるまい。

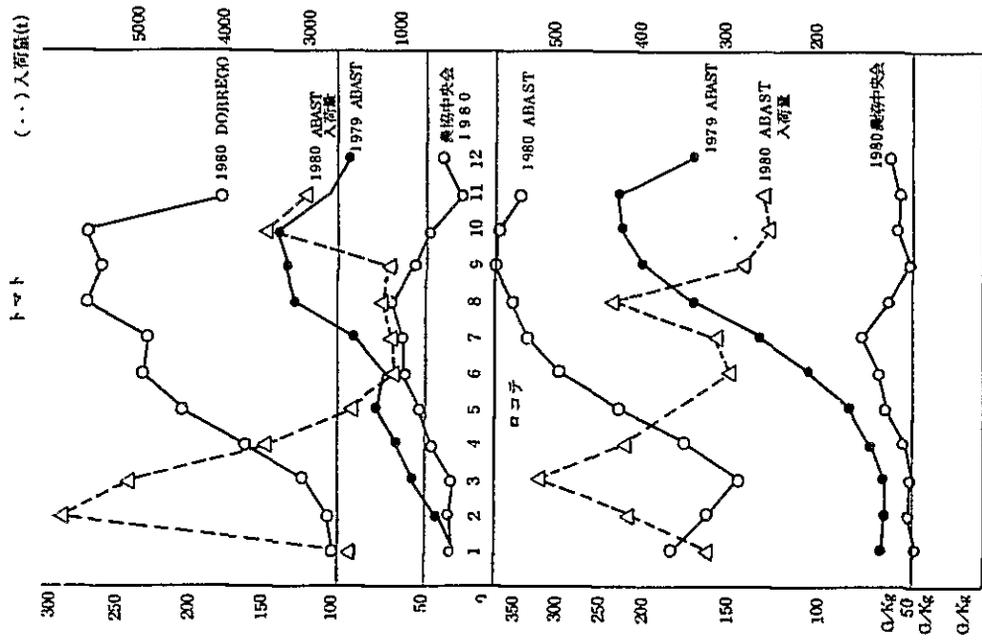
かくて築かれた強固な輸出ルートに乗せて有望と思われる品目例えばトウモロコシ、カボチャ、ニンニク、サツマイモ、結球レタス、ナス、キャベツ等を近代的に積極的に売り込む事が第二段階の政策となろう。

メロンについては損得を抜きにし、ヴェノスアイレスとモンテヴィデオの高額所得層、或いは卸売業者にその存在を早急に認知させ、需要を先ず喚起さす事が肝要であろう。

又、輸出入統計によると、パラグワイーアルゼンチン間の貿易収支は、パラグワイ側の赤字であるから野菜の輸出を国家的見地からその筋の支援を仰ぐ事も必要であろう。

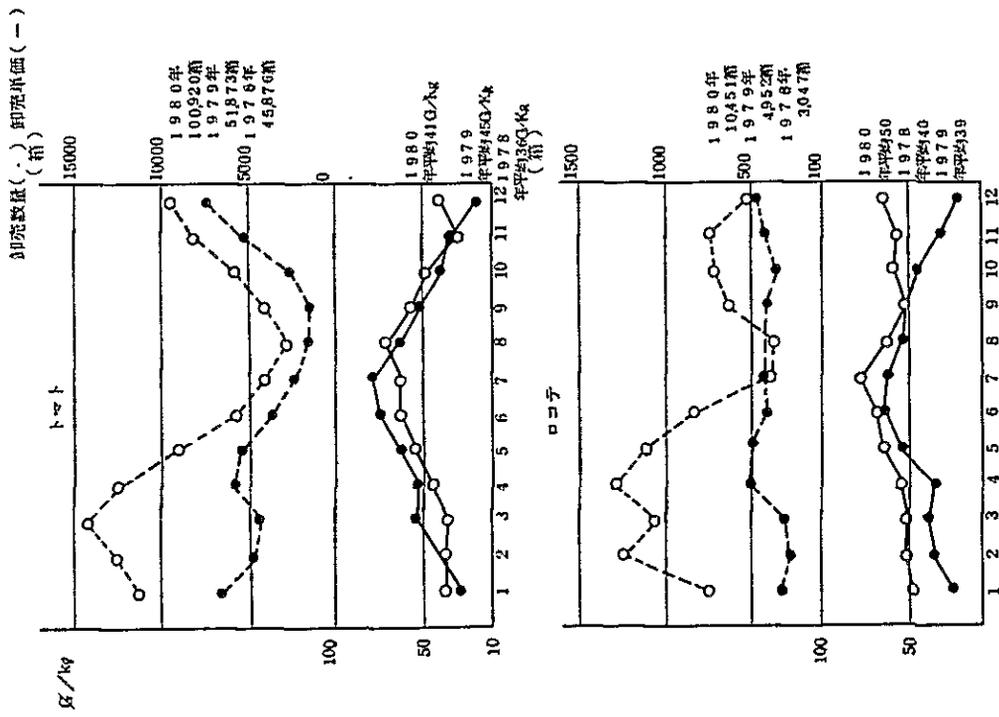
以 上

第4図 ア国ヴェノス・アイルレス市DORREGO市場並びにABAST市場の卸売数量及び価格(3ヶ月変動平均値)



註) アルゼンチン市場の1月と12月の値は月の平均値である。

第3図 農協中央会月別卸売数量及び価格(3ヶ月変動平均値)



第15表 輸出野菜の価格の内訳

品 目	トマト	トマト	トマト
輸 出 先	ヴェノスアイレス	モンテビデオ	モンテビデオ
運 賃	15 円/kg	10.8円/kg	10.8
輸 出 税	7	不 明	7
人 夫 賃	4.6	不 明	4.6
消 耗 品	0.5	不 明	0.5
通 関 費	11.8	CIF価格×0.35(65.8+10.8+296)×0.35=37.2	
銀 行 経 費	2.4	不 明	2.4
保 険 料	0.2	不 明	0.2
業者手数量(輸入)	15.9	不 明	15.9
販 売 税	2.4	不 明	2.4
組合出資金	8	0	3
組合手数量	6.4	0	5
業者手数料	4.5	0	4.5
合 計	78.7		93.5
販売価格	159.3	不 明	159.3
生産者価格	80.6	65.8	65.8

アスンセーナ園芸組合
理事より聴取

管沢職員業者より
聴取

不明のものはヴェノスと同値とし、
その他を推計して算出

第16表 対アルゼンチン輸出入統計

年 次	輸 出		輸 入	
	千吨	千Su.s.	千吨	千Su.s.
1970	16.9	17.6	119.2	11.8
1973	107.3	16.2	110.7	27.4
1976	33.1	18.0	160.5	37.8
1979	110.8	51.0	201.1	74.0

第17表 対ウルグワイ輸出入統計

年 次	輸 出		輸 入	
	吨	千Su.s.	吨	千Su.s.
1970	14.0	2.7	4.5	1.5
1973	56.0	1.1	3.0	0.9
1976	12.2	8.3	24.8	6.9
1979	33.4	13.6	30.2	14.3

文末になったが、今回の調査に際し御協力或いは情報を蒐集提供して下さった各位に深甚の謝意を表したい。

国際協力事業団ブエノスアイレス支部 ブエノスアイレス市金城氏(近郊野菜園芸家)

国際協力事業団ウルグアイ野菜研究協力団 三井内団長、伊藤専門家、加藤調整員

モンテヴィデオ市、AGRICOLA市場監督官

SR WALTER FREDI MORQUIO

モンテヴィデオ市 近郊野菜園芸家並卸売人

SR ROMULO NANOTTI

モンテヴィデオ市 近郊花卉園芸家 飯原氏

モンテヴィデオ市 MODERO市場職員 SR. S. MANUEL ALONSO,

SR. ROBERTO BOGAO

モンテヴィデオ市 野菜輸入業者 SR. FUGENIO BRIL

アスンシオン市 AGROCENTER 久保田氏

農協中央会販売所 合田氏

湖脇商会販売所 広田氏

佐藤商会販売所 山脇氏

アスンセーナ園芸組合 西川参事

国際協力事業団ポルトアレグレ支部

参考資料並びに参考文献

パラグアイ共和国アスンシオン市食品市場改善計画事前調査報告書

昭和55年6月 国際協力事業団

ポケット園芸統計

昭和54年 農林統計協会

理科年表

昭和54年 丸 善

現代新百科事典

昭和43年 学 研

大日本百科事典別巻、世界大地図

昭和47年 小学館

アルゼンチン国概況

昭和55年 国際協力事業団ブエノス支部

BOLETIN ESTADISTICO BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY

DEPARTAMENTO DE ESTUDIOS ECONOMICOS NO. 265

BOLETIN MENSUAL DE FRUTAS Y HORTALIZAS MINISTERIO
DE ECONOMIA BUENOS AIRES NO. 181

FAO MONTHLY BULLETIN OF STATISTICS Vol 2. MAY 1979

TABULADO DE PRECIOS DECLARADOS DE IMPORTACION

MINISTERIO DE ECONOMIA EDICION NO. 146

第14会計年度業務報告書

昭和55年 拓進ジョボイラ協同組合

アスンセナ園芸組合グエノスアイレス市輸出実績

COOPERATIVA ASUNCENA DE

HORTICULTORES

あとがき

調査団が結成されたのが出発の前日で、計画が出来たのは10日後であったろうか。事前打合せもそこそこに3740kmの調査に出発した。最も入手したかった各国の野菜生産統計輸出入統計も欠けたまま報告書作成に入らざるを得なかったのはいかにも残念である。使用した統計資料の数字に全幅の信頼を置けないのもあろうが、数字の乏しい所では使わざるを得ない。各国の首都圏のトマト、メロンの消費量にしても筆者がこれ等をもとに敢えて推計したものである。幸いにして本報告が各国の野菜の生産と流通の概況を描き出して、パラグアイの野菜生産の長期的展望を政策作成にいくばくかでも資するところがあれば幸甚である。

終り

JICA